

宮城県慶長使節船ミュージアム サン・ファン館 館長

ひらかわ あらた 平川 新

未来への航路

ビスカイノの来日目的

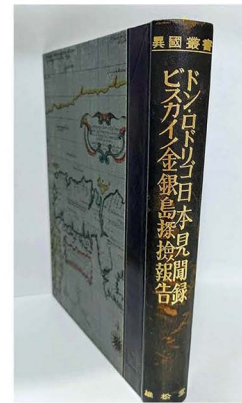
ビスカイノの使者として日本に派遣されて来たのです。

1611年12月(慶長16年)に発生した慶長津波については、前回は三つありました。

一つは、メキシコ副王からの答礼使としての役割です。1608年、前フィリピン総督ロドリゴ・デ・ビヘロがマニラからメキシコに帰還する途中、房総半島沖で遭難しました。地元民に救助されましたが、乗船者が前フィリピン総督だということに気が付いたため、家康に報告したのです。

メキシコ副王は本国に在るスペイン国王を補佐し、中南米やアジアにあるスペインの植民地を管轄していましたが、その厚意に謝意を表すためビスカイノを答礼使として派遣したのでした。当時からこうした国際儀礼が存在していたのです。

二つめは、徳川幕府が求めるメキシコ貿易について交渉するためでした。ビヘロが前フィリピン総督だということを知った家康は、駿府で彼を引見し、メキシコと貿易がしたいということを率直に伝えました。メキシコ副王やスペイン国王に提言してもらうには、



『ビスカイノ金銀島探検報告』の背表紙



ビスカイノ肖像画 (wikipediaより)

17 メキシコ副王の使者ビスカイノ

ビスカイノは、カトリックを信仰し、領土を拡大したりする探検家でした。マニラからメキシコに至る航路の探検もし、府船でメキシコに送還したので、スペイン領メキシコに送還したのです。

ビスカイノは、カトリックを信仰し、領土を拡大したりする探検家でした。マニラからメキシコに至る航路の探検もし、府船でメキシコに送還したので、スペイン領メキシコに送還したのです。

「坤輿萬國全圖」の金銀島の部分(図中の活字は筆者注)、東北大学図書館蔵



ビヘロはうつてつけの立場にあったからなのです。機を見るに敏な家康の性格が、こういうところにも現れています。その提案をビヘロが持ち帰り、代わってビスカイノが貿易交渉の任を負って派遣されたのでした。マニラ船の東日本での寄港地を探している最中に慶長津波に遭遇したので、次回紹介することになります。

奥国の金が使われ、平泉中尊寺の金色堂も有名でした。黄銅の産金地が描かれていた(絵図参照)。実在するかと考えられていたことがわかります。同図では日本沖合の太平洋のことを「小東洋」と読んでいます。日本列島の左側に記入された文字は「日本海」です。韓国では「日本海」呼称が一般的になったのは日本の植民地支配からだと主張していますが、同図はそれよりはるか以前であるビスカイノの来日して日本で金銀が産出されていることを示しています。

金銀島の探検も目的

三つめは、ビスカイノの報告書が『金銀島探検報告』となつていくように、日本近海にあるとされていた金銀島を探し出すことでした。イタリア商人のマルコ・ポーロが各地を歴遊して書いた「東方見聞録」で日本を黄金の国だと紹介して以来、ヨーロッパでは黄金の国ジバングが憧れの地になっています。

奥国の金が使われ、平泉中尊寺の金色堂も有名でした。黄銅の産金地が描かれていた(絵図参照)。実在するかと考えられていたことがわかります。同図では日本沖合の太平洋のことを「小東洋」と読んでいます。日本列島の左側に記入された文字は「日本海」です。韓国では「日本海」呼称が一般的になったのは日本の植民地支配からだと主張していますが、同図はそれよりはるか以前であるビスカイノの来日して日本で金銀が産出されていることを示しています。



ひらかわ・あらた 昭和25年、福岡県出身。東北大学名誉教授。館館長に就任した。

東北大学災害科学国際研究所の所長などを経て、平成26-31年度まで宮城学院女子大学学長を務めた。専門は日本近世史、歴史資料保全学。令和4年4月に、3代目のサン・ファン館館長に就任した。